

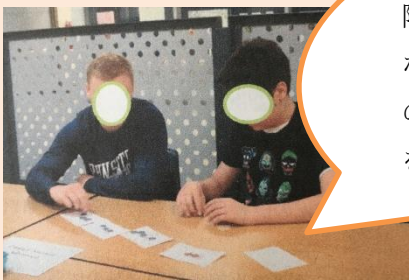
# カンザス研修（2017.3.4~3.13）の報告

＜カンザス州、ミズーリ州の学校訪問：Special Education を中心に＞



カンザス大学教育学部棟前にて Cheatham 先生と。アメリカの特別支援教育における保護者とのパートナーシップの形成について、お話をいただきました。今回も温かく迎えていただきました。

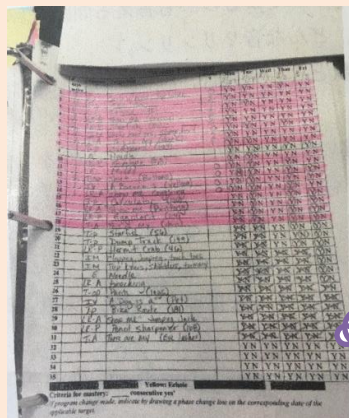
障害のある18歳～21歳までの教育プログラム（日本にはない公教育）の見学も行きました。



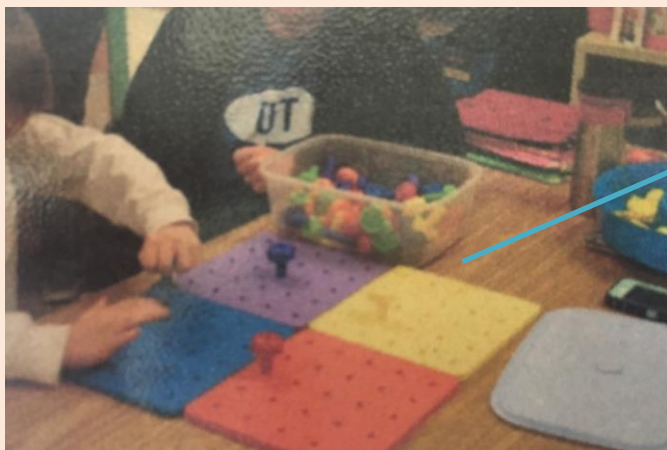
障害のある高校生と障害のない高校生が参加する授業の見学。お金の計算の練習を一緒に。



小学校の個別指導の時間。ミズーリ州では、応用行動分析学の理論に基づく言語・社会的スキルの指導が州全体で取り組まれていました。指導経過を記録し、子どもたちの成長の様子を評価しながら指導を展開していました。



記録用紙。達成したらマーカーを引く。3日間連続でできたら達成。



特別支援クラスには、教員以外の専門的なサービスを提供する作業療法士や理学療法士、言語聴覚士がいました。作業療法士による個別指導の様子。

必要な子どもには、1台ずつタブレット端末が用意されていました。コミュニケーションの場面や、学習場面で使用していました。好きなおもちゃを選び遊びたい活動を要求する場面の写真。



休み時間に、上級生の子ども（peer 役の6年生）が、特別支援クラスに遊びに来て、クラスの下級生の子どもたちと遊んでいる様子。

今回も新たな発見による学びと、日本の特別支援教育との共通点について学ぶことができた研修でした。学校を案内してくださったコーディネーターの先生、授業を観察させていただいた先生方に感謝いたします。